

現代アートにおける“若手作家の登竜門”

『VOCA展2019 現代美術の展望－新しい平面の作家たち』開催！

=VOCA賞／東城信之介さん＝

会期：2019年3月14日(木)～30日(土)／会場：上野の森美術館

「VOCA展」実行委員会および公益財団法人日本美術協会・上野の森美術館は、来る3月14日(木)から3月30日(土)までの17日間にわたり、『VOCA展2019 現代美術の展望－新しい平面の作家たち』(The Vision of Contemporary Art／特別協賛：第一生命保険株式会社)を上野の森美術館(東京都台東区)で開催します。

■新進気鋭の作家33人(組)が出品する展覧会

『VOCA展2019』に出品するのは、これからを期待される新進気鋭の作家33人(組)です。この中から、グランプリとなるVOCA賞には神奈川県在住(長野県出身)のアーティスト・東城信之介さんの《アテネ・長野・東京ノ壁ニアルデアロウ摸写》(4頁参照)が決定した他、VOCA奨励賞には石場文子さん、チョン・ユギョンさん、VOCA佳作賞には遠藤薰さん、目(荒神明香・南川憲二・増井宏文)さんの作品が選出されました。また、大原美術館賞には喜多村みかさんの作品が、同美術館の選考を経て選出されました。



■国際的に通用する若手作家の支援を目的に、1994年より開催

「VOCA展」は、現代アートにおける平面の領域で、国際的にも通用するような将来性のある若い作家の支援を目的に、1994年より毎年開催している美術展です。日頃から公平な立場で作家たちと接している全国の美術館学芸員、研究者、ジャーナリストなどから推薦委員を選出し、それぞれ40歳以下の作家1名(組)を推薦していただき、推薦された作家全員に展覧会への出品を依頼しています。こうしたシステムにより、全国各地で活躍する優れた未知の才能を毎回紹介しています。

■やなぎみわ、蜷川実花など多方面で活躍する作家を輩出

これまで「VOCA展」に出品した作家は、延べ888人(組)。福田美蘭(1994年VOCA賞)、やなぎみわ(1999年VOCA賞)、蜷川実花(2006年大原美術館賞)、清川あさみ(2010年佳作賞)など多方面で活躍している作家たちが出品しています。この間VOCA展は「平面」という一貫した切り口で若い世代の動向をヴィヴィッドに反映しながら、まさに「今日の美術」を見せてきました。

■『VOCA展2019』のさまざまな関連企画を実施 ※詳細は8頁参照

『VOCA展2019』の関連企画として、シンポジウム「どこで想い、描くか」(3月13日)や受賞作家による「アーティスト・トーク」(3月16日・23日)、「学芸員によるギャラリートーク」(3月17日・24日)などの実施に加え、上野の森美術館の別館ギャラリーでは、「VOCA展2005」の出品者である内海聖史さんの個展を同時開催します。

第1回開催より「VOCA展」を協賛いただいている第一生命保険株式会社は、VOCA賞、VOCA奨励賞受賞作品(今回よりVOCA賞のみ)を収蔵し、本社1階にあるロビーでの展示や、第一生命ギャラリー(東京都千代田区)で定期的に公開しています。また全受賞者に対して、同ギャラリーを個展の会場として提供しています。『VOCA展2019』の会期を含む3月1日(金)～4月19日(金)には、「CONNECT VOCA！」を第一生命ギャラリーで開催します。その他、トリトン・アーツ・ネットワーク*主催「室内楽アートリーチセミナー」修了生カルテットによる第一生命コンサート「美術館で聴く子どものためのクラシック」(上野の森美術館)を実施します。

*第一生命ホール(晴海)を拠点に、同ホールでの公演事業とホール周辺地域を中心としたコミュニティ事業を展開する認定NPO法人

■公式ページで「VOCA展」の情報を公開

『VOCA展2019』の最新情報は、上野の森美術館ホームページ(<http://www.ueno-mori.org/>)内で随時公開します。

『VOCA 展 2019』受賞者一覧

■VOCA 賞

作家名	生年	現住所	作品名	素材
東城 信之介 (とうじょう しんのすけ)	1978	神奈川県相模原市	アテネ・長野・東京ノ壁ニアルデアロウ摸写	鏽・顔料・油彩・アクリル・ステンシル・転写、鋼板

■VOCA 奨励賞

作家名	生年	現住所	作品名	素材
石場 文子 (いしば あやこ)	1991	愛知県名古屋市	2と3、もしくはそれ以外(祖母の家)	インクジェットプリント、額
チヨン・ユギョン (ちょん ゆぎょん)	1991	韓国・京畿道	Let's all go to the celebration square of victory!	アクリル、カンヴァス

■VOCA 佳作賞

作家名	生年	現住所	作品名	素材
遠藤 薫 (えんどう かおり)	1989	ベトナム・ハノイ	ウエス	雑巾
目 (荒神明香) / 目 (南川憲二) (め) (みなみがわけんじ) (増井宏文)	1983 1979 1980	埼玉県北本市	アクリルガス	樹脂・アクリル他

◇選考委員（上記各賞については、以下の選考委員により選考）

島 敦彦（選考委員長／金沢21世紀美術館館長）
 光田 由里（DIC川村記念美術館 学芸部マネジャー）
 柳沢 秀行（大原美術館学芸課長）
 小勝 禮子（美術史・美術批評）
 水沢 勉（神奈川県立近代美術館館長）

■大原美術館賞 ※同美術館が選考

作家名	生年	現住所	作品名	素材
喜多村 みか (きたむら みか)	1982	東京都杉並区	TOPOS	インクジェットプリント

「VOCA展」実行委員会

- 委員長：島 敦彦（金沢21世紀美術館館長）
- 副委員長：畠中 秀夫（第一生命保険株式会社 取締役常務執行役員）
- 委員：光田 由里（DIC川村記念美術館 学芸部マネジャー）
 柳沢 秀行（大原美術館学芸課長）
 小勝 禮子（美術史・美術批評）
 水沢 勉（神奈川県立近代美術館館長）
 泉 菜々子（第一生命保険株式会社 DSR 推進室課長）
 坂元 晓美（上野の森美術館学芸課長）

「VOCA展2019」開催概要

◆名 称	VOCA展2019 現代美術の展望ー新しい平面の作家たち
◆主 催	「VOCA展」実行委員会、公益財団法人日本美術協会・上野の森美術館
◆特別協賛	第一生命保険株式会社
◆会 場	上野の森美術館（東京都台東区上野公園1-2）
◆会 期	2019年3月14日（木）～3月30日（土）〔17日間／会期中無休〕
◆開館時間	10:00～18:00 ※3月21日（木・祝）は13:00～ ※入場は閉館30分前まで
◆入 場 料	一般600（500）円、大学生500円、高校生以下無料 ※（）は前売料金
◆チケット	チケットぴあ(Pコード：769-450)、ローソンチケット(Lコード：31777)、e+(イープラス)・スマチケ、CNプレイガイド、楽天チケット、主要コンビニエンスストア店頭などで販売 ※手数料がかかる場合あり
◆推薦委員	「VOCA展」実行委員会から選出された全国の美術館学芸員、研究者、ジャーナリストなどに、作家1名（組）の推薦を依頼
◆出品作家	<ul style="list-style-type: none">・推薦委員の推薦に基づき、VOCA展実行委員会より依頼した作家、国籍不問・1978年4月1日以降生まれ（40歳以下）※同展会期中（2019年3月）に40歳以下であること・過去25回開催した「VOCA展」の出品作家（受賞者含む）も可
◆出品作品	<ul style="list-style-type: none">・平面作品・抽象、具象、素材は問わない・出品時からさかのぼって1年以内に制作された、未発表の作品・作品サイズは、250cm × 400cm以内の壁面（タテ形、ヨコ形は不問）に展示できるもの・作品単体のサイズ（輸送時）は、250cm × 200cm以内とし、複数の作品、パネル等のジョイントにより250cm × 400cm以内の壁面に展示できるものとする 例：250cm × 200cmのパネル2枚を会場でジョイントして250cm × 400cmとすることは可 250cm × 400cmの巻キャンバスと木枠を会場で組み立てることは不可・作品の厚さは、20cm以内・作品の重量は、総重量80kg以内、個々で40kg以内・展覧会場で制作および長時間の展示作業を必要としない完成作品 複数の作品もしくは部分で構成される場合は明確な展示図面、指示書を提出すること*展示に支障をきたす作品は不可*作品は第三者の権利（著作権、肖像権など）を侵害しないこと*作品が出品規定を満たしているかの最終的な判断は主催者に委ねられる*作品の展示場所は、主催者側の判断で決める*展示壁面の高さは、250cm～500cm（展示室によって異なる）
◆選考委員	島 敦彦（金沢21世紀美術館館長） 光田 由里（DIC川村記念美術館 学芸部マネジャー） 柳沢 秀行（大原美術館学芸課長） 小勝 禮子（美術史・美術批評） 水沢 勉（神奈川県立近代美術館館長）
◆賞	VOCA賞 1名 正賞および副賞（300万円） VOCA奨励賞 2名 正賞および副賞（50万円） VOCA佳作賞 2名 正賞および副賞（10万円） ※上記3賞は、選考委員が選考します ※選考により、「該当者なし」のこともあります ※VOCA賞は、第一生命保険株式会社の収蔵作品となります 大原美術館賞 1名 正賞および副賞 ※大原美術館賞は、館の代表者がVOCA賞以外から選定し、作者の了解のもと、同館の収蔵作品となります ※上記4賞（最大6名）の入賞者には、第一生命ギャラリーでの個展の機会が与えられます

※第一生命保険株式会社は、VOCA展の運営サポートを行うほか、受賞作品を収蔵し、本社1階にあるロビーでの展示や、第一生命ギャラリー所蔵作品展で同作品の定期的な公開を行っています。また、受賞者による同ギャラリーでの個展も随時開催しています。



東城 信之介
《アテネ・長野・東京ノ壁ニアルデアロウ摸写》

鋳・顔料・油彩・アクリル・ステンシル・転写、鋼板
[230cm × 369cm]

●VOCA賞受賞者 東城信之介さんのコメント

2017年アテネを訪問した際、そこで見た壁に故郷(長野)を重ね合わせた。その頃世界各地で壁の写真を撮り歩いていたが、どの国も壁に世相が像として残り強制的にそれと向き合はせられた。そして特定の物体に疑念を抱く自分と他者が触れたものに執着してしまう自分は、それらを媒介させ作品にする事で不安を払拭し自分事として着地させた。これから訪れる世界的催事の反映がどういう形で現れるかはわからないが、きっと似たような壁を目にすることだろう。

◇推薦委員・山内舞子氏のコメント（会場における本作品鑑賞の手引き）

東城がアテネで察したのは同じ「国際的な大会」を開催した故郷・長野と同質の荒廃だった。そして彼が制作において重視してきた二者関係「物質と作家」「過去と現在」には「世界」と「未来」が加わった。本作の視覚的性質は街角の「壁」それ自体が社会の「鏡」であることを暗喩し、そこには表現と主題の強固な結縁が窺える。

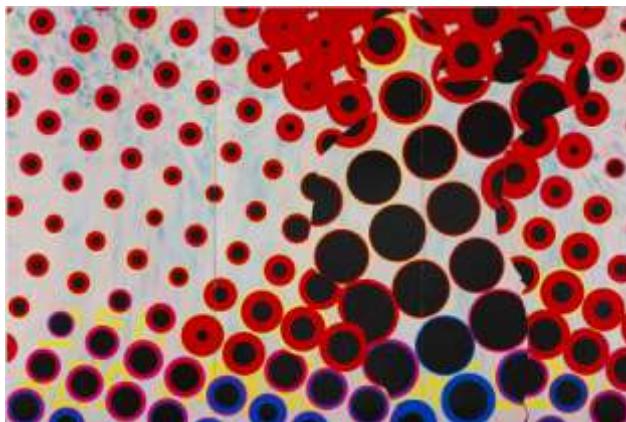
「VOCA展2019」その他の受賞作品

【VOCA奨励賞】



石場 文子 《2と3、もしくはそれ以外(祖母の家)》 インクジェットプリント、額 [107cm×76.8cmが4枚]

【VOCA奨励賞】



チョン・ユギヨン 《Let's all go to the celebration square of victory!》 アクリル、カンヴァス [223cm×330cm]

【VOCA佳作賞】



遠藤 薫 《ウエス》 雜巾 [240cm×390cm]

【VOCA佳作賞】



目 (荒神明香・南川憲二・増井宏文)
《アクリルガス》 樹脂・アクリル他 [φ170cm]

【大原美術館賞】



喜多村 みか 《TOPOS》
インクジェットプリント
[120cm×180cmが2枚]

VOCA展選考委員「VOCA展2019」選考所感

選考委員長 島敦彦（金沢21世紀美術館館長）

絵画、写真、映像、布など表現媒体が多岐にわたる傾向は今回も顕著であった。複数の作品やパーツの組み合わせも目立った。日常を改めて見直す追求もあったが、社会的問題への問いかけや文明批評的な作風も散見された。VOCA賞となつた東城信之介の《アテネ・長野・東京の壁ニアルデアロウ摸写》は、繰り返される国際的な大会に対する風刺的態度を、光り輝く鋼板へのエネルギーッシュな殴り書きや転写によってほのめかしている。

光田由里（DIC川村記念美術館 学芸部マネジャー）

各作家が生み出したメッセージのリテラシーに新たな平面の語法があり、それらの独自性に注目した。東城氏の受賞作にはグラフィティ風の筆法と金属の物質性、画像転写や歪像反射が、タイトルが示す意味のレイヤーに重なる。行為の痕跡を物質と手仕事の量として見せた遠藤氏の受賞作のような「画家ではない作家の平面作品」にもひかれる。祖母の不在を輪郭線で示して物と写真像／平面の関係を見せる石場氏のねらいは、近藤恵介氏や齋恒太郎氏の突き詰める絵画の問題と裏面でつながっている。

柳沢秀行（大原美術館学芸課長）

最初に出品作を一覧した際、画面への映り込みが多いなという印象を持った。それは、例年に比べて、画布に描かれた絵画が明らかに減り、写真、あるいは紙や画布以外の素材を用いた作品が増えたことが理由である。ただ、それはその選択の根底に、目の前に立つ私、あるいはそこに射す光を鮮明に顕現させようとする意識、つまり作品に「今」と「観客」を取り込む意識が横たわっている気がする。

小勝禮子（美術史・美術批評）

これまでにも増して多様な技法の表現が集まった。写真を使った作品も目立ち、またネット上のイメージを収集し加工するものも散見された。なかでVOCA賞の東城信之介《アテネ・長野・東京ノ壁ニアルデアロウ摸写》は、オリンピック開催都市の壁の落書き（の重なり）という体裁を取りながら、過去と現在、そして来たるべき未来を射程に据え、社会を映す「鏡」としての絵画の役割を、多層に見える錯視的画面のなかに批評的に体現して見事であった。

水沢勉（神奈川県立近代美術館館長）

確実に世代が交代しつつある。全体としてどこに焦点が結ぶかは定かではない。堂々たるペインタリーな絵画らしい絵画は少なくとも前景を占めていない。今回のVOCA賞の東城信之介作品の鋼板をグラインドさせた線条によって、錯視的な空間の厚みを現出させていた。そこにオリンピックにまつわるイメージ群が渾然と配されている。ピントが合わないのは、批評なのか、ひとつの現状確認なのか。その疑念が現代的である。

「VOCA展2019」出品作品一覧【作家33人(組)／50音順】

作家名	生年	現住所	作品タイトル	素材
新井 卓	1978	神奈川県川崎市	第五福竜丸(乗組員の布団)のモニュメント: A.〈乗組員の布団〉の多焦点モニュメント B.第五福竜丸元乗組員・大石又七のモニュメント C.第五福竜丸元乗組員・大石又七	ダゲレオタイプ、圧力測定フィルム、アクリル、 液晶ディスプレイ、映像、ヘッドフォン
石垣 渉	1979	北海道札幌市	雪上の轍(わだち) ~その先へ~	紙・透明水彩・不透明水彩・紙粉・膠・アルミ箔
石場 文子	1991	愛知県名古屋市	2と3、もしくはそれ以外(祖母の家)	インクジェットプリント、額
遠藤 薫	1989	ベトナム・ハノイ	ウエス	雑巾
大平 由香理	1988	大分県別府市	廻生	顔料・箔他、パネル
尾角 典子	1979	イギリス・ロンドン	From where you are	水彩・糊・ワックス絵具・レーザープリント・紙
岡本 高幸	1978	大阪府東大阪市	Transient Microscopic Nova #16 Transient Microscopic Nova #17 Transient Microscopic Nova #18	アーカイバル・ピグメント・プリント、アルミニウム
片山 達貴	1991	京都府京都市	つなぎ目から 祖母と/ 祖父と/ 祖父と/ 祖母と/ 父と/ 兄と/ 母と	写真インクジェットプリント、額(アッシュ材・ガラス板)
喜多村 みか	1982	東京都杉並区	TOPOS	インクジェットプリント
金城 徹	1979	沖縄県那覇市	あなたのたつところ	ミクストメディア
クスミ エリカ	1982	北海道札幌市	Metropolis	ライトジェットプリント(アクリルマウント)
KOURYOU	1983	東京都足立区	足もとのスプリット・デバイス(アプリ版「キツネ事件簿」開発に向けた設計図、模型)	①板・針金・ウレタン樹脂・ポリエステルパテ・アクリル板・布・プラスチック・水彩・アクリル・ペン他 ②パネル・紙・水彩・アクリル・ペン他
近藤 恵介	1981	佐賀県佐賀市	“わ”と書いて、つぎに“た”、つづけて“し”はシットンナップをきかせる——すべて鉛筆で——翌朝に“と”をペンでゆっくり紙にインクをしみこませるよう にひき、その日の晩に“そ”を蛍光ペンでなげやりに かく、“の”と“状”は目をつぶる前にベッドで寝そべっ て指で宙になぞった、その2年後に“況”を書きはじめたが1年はかかるだろう	①岩絵具・水干・膠・鳥の子紙・糊・木・石・釘 ②墨・絹・テープ・木材 ③岩絵具・水干・膠・墨・鳥の子紙・その他紙・木材 ④岩絵具・膠・染料・墨・ペン・薄美濃紙・テープ・ガラス板 ⑤岩絵具・水干・膠・墨・板 ⑥岩絵具・水干・膠・墨・金箔・鳥の子紙・糊・木製パネル・釘 ⑦水干・膠・アクリル板・墨・鳥の子紙・糊・木材・ねじ・釘
笹山 直規	1981	滋賀県大津市	Lines of Death	油彩、カンヴァス
佐野 直	1987	熊本県熊本市	icon	アクリル・油彩、綿布・パネル
白井 晴幸	1981	東京都杉並区	panoramas	ピグメントプリント
鈴木 謙一	1988	東京都北区	窓辺 #02/ 窓辺 #10-1/ 窓辺 #10-2	モニター、映像、ライトジェットプリント
関川 航平	1990	東京都足立区	歌につれ	積木
滝沢 広	1983	埼玉県さいたま市	Arrangement	インクジェットプリント(pvcシート)・レジン・アクリル・木材
多田 友充	1979	青森県弘前市	存在するということ(祝福と永遠の瞬間)	アクリル、カンヴァス
蟹 恒太郎	1981	京都府京都市	キャバレーへ	油彩・紙、カンヴァス
田中 真吾	1983	滋賀県大津市	re:trans-lation	木材(ベニヤ板・角材)
田中 武	1982	福岡県豊前市	花のたとえ、嵐のたとえ	アクリル、高知麻紙
チョン・ユギョン	1991	韓国・京畿道	Let's all go to the celebration square of victory!	アクリル、カンヴァス
手嶋 勇気	1989	広島県広島市	ある景色	油彩、綿
東城 信之介	1978	神奈川県相模原市	アテネ・長野・東京ノ壁ニアルデアロウ摸写	鑄・顔料・油彩・アクリル・ステンシル・転写、鋼板
中島 麦	1978	大阪府茨木市	luminous dropping	アクリル、カンヴァス
中山 明日香	1986	兵庫県神戸市	eruption	油彩、カンヴァス
西村 有	1982	神奈川県横須賀市	アラベスク 花	油彩、カンヴァス アクリル、カンヴァス
堀 至以	1988	石川県金沢市	shuttles (F [flower]) / shuttles (E [ear])	油彩、カンヴァス
三家 俊彦	1979	ドイツ・ベルリン	Dream #4	ステンレススチール
三輪 恭子	1982	神奈川県横浜市	ハッピーマーク・ドローイング	ペン・パステル、紙
(荒神明香) 目 (南川憲二) (増井宏文)	1983 1979 1980	埼玉県北本市	アクリルガス	樹脂・アクリル他

「VOCA展2019」関連企画

■シンポジウム「どこで想い、描くか？」※要申込み(下記参照)／定員：150名

日時：3月13日(水)15:00～17:00／場所：上野の森美術館

モデレーター：島敦彦

パネリスト：光田由里、柳沢秀行、小勝禮子、水沢勉、内海聖史、斎藤芽生 ※敬称略

＜シンポジウムお申込み・お問合せ＞

住所・氏名と、シンポジウム参加希望を明記のうえ、FAXまたはeメールにてお申し込みください。

定員となり次第、締め切らせていただきます。

◎申込み先：上野の森美術館「VOCA展」係 FAX:03-3833-4193／eメール:voca2019_v@ueno-mori.org

※申込みの際に取得した個人情報は、申込み者への通知および予定変更等の連絡のみに使用いたします。

◎問合せ先電話番号：03-3833-4191(上野の森美術館)

■受賞作家によるアーティスト・トーク ※申込み不要。ただし、展覧会の入場券が必要。

日時：3月16日(土)15:00～16:00遠藤薫(VOCA佳作賞)、チョン・ユギョン(VOCA奨励賞)

3月23日(土)15:00～16:30石場文子(VOCA奨励賞)、喜多村みか(大原美術館賞)、東城信之介(VOCA賞)、目(VOCA佳作賞)

場所：上野の森美術館

■学芸員によるギャラリートーク ※申込み不要。ただし、展覧会の入場券が必要。

日時：3月17日(日)、24日(日)15:00～／場所：上野の森美術館

■【同時開催】内海聖史「やわらかい絵画」

日時：3月14日(木)～30日(土)10:00～18:00／場所：上野の森美術館ギャラリー

上野の森美術館の別館ギャラリーでは、VOCA展の会期に合わせ、同展覧会にゆかりのある作家の小企画展を開催します。今回は「VOCA展2005」の出品者である内海聖史さんの個展です。

■東京・春・音楽祭「ミュージアム・コンサート 大矢素子(オンド・マルトノ)～現代美術と音楽が出会うとき」

日時：3月22日(金)19:00～／場所：上野の森美術館

東京・春・音楽祭「ミュージアム・コンサート 小山裕幾(フルート) & イ・ジナ(フルート)～現代美術と音楽が出会うとき」

日時：3月29日(金)19:00～／場所：上野の森美術館

毎年開催される、東京・春・音楽祭－東京オペラの森2019－のプログラムとして、VOCA展展示室内で行うミュージアム・コンサートを開催。現代美術の展示される会場で聴く現代音楽は普段では味わえない格別な時間をお届けいたします。

※チケットのご購入等、詳しくは音楽祭の公式HPをご参照ください。<http://www.tokyo-harusai.com>

■第一生命コンサート「美術館で聴く子どものためのクラシック」

3月21日(木・祝)上野の森美術館にて、認定NPO法人トリトン・アーツ・ネットワーク主催「室内楽アートリーチセミナー」修了生カルテットによるギャラリーコンサートを開催します。

(本企画は、台東区および第一生命のお客さまをご招待のため、一般の参加お申し込みは受け付けておりません)

■「第一生命ギャラリー」展示スケジュール

開館時間：12:00～17:00(金曜日は19:00まで) ※土・日・祝日は休み

場所：東京都千代田区有楽町1-13-1 第一生命保険株式会社 日比谷本社1F

展覧会名	会期
VOCA受賞作品展「CONNECT VOCA！」	2019年3月1日(金)～4月19日(金)

※「VOCA展2019」の作品画像や招待券読者プレゼント等のご要望につきましては、下記広報事務局にて承ります。

《この件に関するお問合せ先》

VOCA展広報事務局(株)ジェーワン内／担当：久保、大柳 TEL 03-3584-4981／voca_pr@jone.jp